

SMB C・日興 世銀債ファンド

(愛称：世界銀行グリーンファンド)

ファンドの概要

設定日 2010年2月19日
償還日 2024年10月21日
決算日 原則毎月20日
収益分配 決算日毎

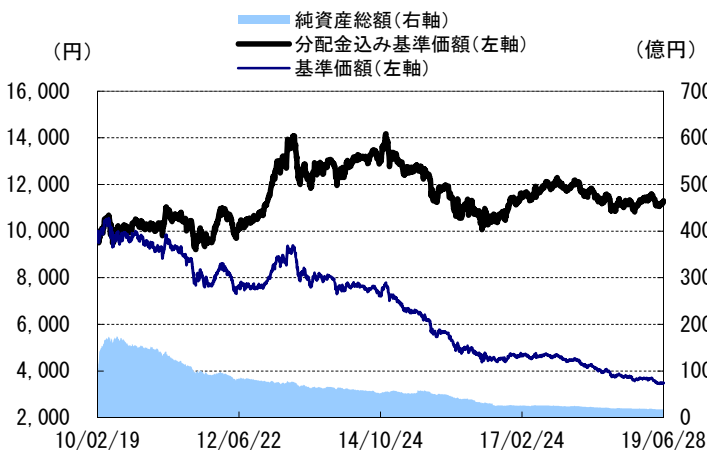
ファンドの特色

1. 相対的に利回りの高い世界銀行債券を中心に投資します。
2. 毎月の安定分配をめざします。
3. 「日興マネー・アカウント・ファンド」とのスイッチング（乗換え）ができます。

運用実績

※このレポートでは基準価額および分配金を1万口当たりで表示しています。
※当レポート中の各数値は四捨五入して表示している場合がありますので、それを用いて計算すると誤差が生じることがあります。
※当レポートのグラフ、数値等は過去の実績であり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

<基準価額の推移>



基準価額：3,491円

純資産総額：17.62億円

<基準価額の騰落率>

1か月	3か月	6か月	1年	3年	設定来
1.45%	-0.19%	3.10%	0.59%	7.99%	13.02%

※基準価額の騰落率は、当ファンドに分配金実績があった場合に、当該分配金（税引前）を再投資したものと計算した理論上のものである点にご留意ください。

※分配金込み基準価額の推移は、分配金（税引前）を再投資したものを表示しています。

※基準価額は、信託報酬（後述の「手数料等の概要」参照）控除後の値です。信託報酬の詳細につきましては、後述の「手数料等の概要」をご覧ください。

<資産構成比率>

WBグリーンファンド クラスA	98.6%
マネー・アカウント・マザーファンド	0.1%
その他	1.3%

<分配金実績（税引前）>

設定来合計	直近12期計	18・7・20	18・8・20	18・9・20	18・10・22	18・11・20
7,820円	480円	40円	40円	40円	40円	40円
18・12・20	19・1・21	19・2・20	19・3・20	19・4・22	19・5・20	19・6・20
40円	40円	40円	40円	40円	40円	40円

※上記は過去のものであり、将来の収益分配を約束するものではありません。

<基準価額騰落の要因分解>

前月末基準価額	3,481円
当月お支払いした分配金	-40円
要因	
ブラジルリアル	3円
メキシコペソ	-5円
南アフリカランド	5円
ニュージーランドドル	2円
オーストラリアドル	-2円
ノルウェークローネ	2円
アメリカドル	-12円
イギリスポンド	-2円
コロンビアペソ	8円
ポーランドズロチ	3円
カナダドル	2円
マレーシアリングギット	-1円
ロシアルーブル	0円
インドネシアルピア	0円
債券・その他	46円
当月末基準価額	3,491円

※上記の要因分解は、概算値であり、実際の基準価額の変動を正確に説明するものではありません。傾向を知るための参考値としてご覧ください。

投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

■当資料は、投資者の皆様にご理解を高めることを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。

WB グリーンファンド クラスAのポートフォリオの内容

※日興アセットマネジメント ヨーロッパ
リミテッドより提供された情報です。

<通貨別構成比>

通貨名	比率	うちグリーンボンド
アメリカドル	14.3%	12.5%
インドネシアルピア	9.7%	9.7%
メキシコペソ	8.3%	8.3%
ポーランドズロチ	8.0%	0.0%
南アフリカランド	7.9%	6.6%
ニュージーランドドル	7.3%	0.0%
コロンビアペソ	7.3%	0.9%
ブラジルリアル	7.3%	6.7%
オーストラリアドル	7.2%	5.4%
ノルウェークローネ	6.7%	0.0%
マレーシアリングギット	5.1%	0.0%
イギリスポンド	5.0%	0.0%
カナダドル	4.6%	0.0%
ロシアルーブル	1.0%	0.6%
日本円	0.3%	0.0%

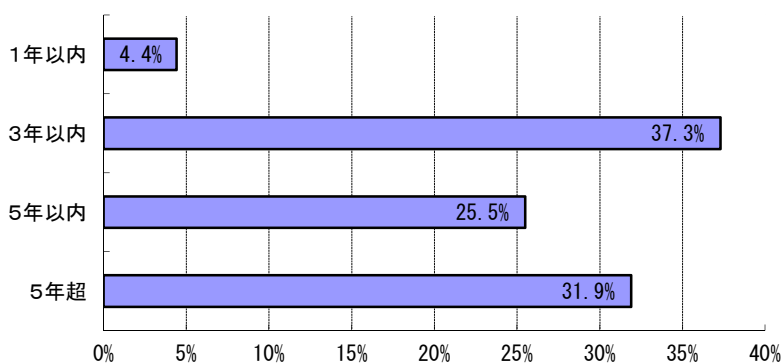
※比率は当外国投資信託の純資産総額比です。

<格付別構成比>

Aaa	99.1%
Aa	0.0%
A	0.0%
Baa以下	0.0%
平均格付	Aaa

※比率は当外国投資信託の純資産総額比です。
※格付はMoody's、S&Pのうち、高い格付を採用しています。
※平均格付とは、データ基準日時点で当外国投資信託が保有している有価証券などに係る信用格付を加重平均したものであり、当外国投資信託に係る信用格付ではありません。

<残存別構成比>



※比率は当外国投資信託の純資産総額比です。
※変動利付債は次回利払い日までの日数で計算しています。

<公社債種別構成比>

世界銀行債券	99.1%
うちグリーンボンド	50.7%
ソブリン債他	0.0%

※比率は当外国投資信託の純資産総額比です。
※ソブリン債は国債、政府機関債、政府保証債、国際機関債などです。

<ポートフォリオの特性値>

最終利回り	3.75%
直接利回り	4.26%
デュレーション	3.54年
組入債券の銘柄数	27銘柄

※利回りは、個別債券および短期金融資産について加重平均したものです。
※最終利回りは、債券および短期金融資産を満期まで保有した場合の利回りです。
※利回りは将来得られる期待利回りを示すものではありません。

投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

■当資料は、投資者の皆様にご理解を深めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。

運用コメント

※運用方針等は作成基準日現在のものであり、将来の市場環境の変動等により変更される場合があります。

◎市場環境

<北米・中南米>

【メキシコ】

メキシコペソは前月末と比べて対円で変わらずとなりました。経済活動については、製造業生産が市場予想を下回ったものの、小売売上高が良好な内容となったことなどから、ネガティブな市場心理は緩和されたとみられています。4月の小売売上高からはメキシコの消費者が景気に対して次第に明るい見方をもちつつあることが確認されました。メキシコペソにとって打撃となったのは、米国大統領によるSNSへの投稿で、米国への移民流入をメキシコがより効率的に阻止できなければ追加関税を課す、との考えを示しました。

【アメリカ】

アメリカドルは、米国の景況感指標が市場予想を上回ったことなどが上昇要因となったものの、米国連邦準備制度理事会（FRB）当局者の発言や低調な米国雇用統計の結果などを受けて、FRBによる利下げ観測が高まったことや、その後の米国連邦公開市場委員会（FOMC）声明が早期利下げの可能性を示唆したとの見方が広がったことなどを背景に、円に対して下落しました。

【ブラジル】

ブラジルレアルは対円で上昇しました。当月の景況感は低調となり、5月のサービス業および総合購買担当者景気指数（PMI）は50を下回りました。好材料となったのは4月の小売売上高で、市場予想を下回ったものの、前月から大きく回復したことから、市場ではブラジルの消費活動の底は3月であったと受け止められました。また、インフレが市場予想よりもやや上回ったことを受けて、中央銀行による利下げが先送りされるとの見方が強まり、ブラジルレアルの追い風となりました。

【コロンビア】

コロンビアペソは対円で上昇しました。経済指標は依然として低調で、4月の製造業生産がマイナスの伸びとなったほか、消費者信頼感や失業率なども市場で失望されました。明るい材料となったのは小売売上高で、市場予想を下回ったものの、安定した伸びとなりました。また、月初は低調に推移していた原油価格が、その後は上昇基調で推移したことも、コロンビアペソが下支えされた要因とみられています。

【カナダ】

カナダドルは、カナダの消費者物価指数が市場予想を上回ったことや、雇用統計が堅調な内容であったことに加え、中東の地政学リスクの高まりへの警戒などから、カナダの主要輸出品目である原油の価格が上昇したことなどを背景に、円に対して上昇しました。

<アジア・オセアニア>

【オーストラリア】

オーストラリアドルは、オーストラリアの雇用統計の結果などを受けて、オーストラリア準備銀行（RBA）による利下げ観測が広がったことや、RBAが発表した金融政策決定会合の議事要旨にて追加の金融緩和が必要になる可能性が高いとの認識が示されたことなどを背景に、円に対して下落しました。

【ニュージーランド】

ニュージーランドドルは、ニュージーランド製造業の景気指標が前回より悪化したことなどが下落要因となったものの、ニュージーランドの2019年1-3月期国内総生産（GDP）が市場予想を上回ったことなどを背景に、円に対して上昇しました。

【マレーシア】

マレーシアリンギットは対円で下落しました。米国連邦準備制度理事会（FRB）および欧州中央銀行（ECB）によるハト派的なスタンスが強まった発言や、G20に合わせて行なわれる米中首脳会談への期待から、リスクセンチメントが世界的に回復しましたが、中国の景気減速への懸念の継続によって相殺されました。4月の鉱工業生産は市場予想を上回り、前月から伸びが加速しましたが、外需に加えて、以前実施された付加価値税（VAT）廃止によって内需にもたらされる影響の低下も一因となり、経済成長への懸念は払拭されませんでした。

【インドネシア】

インドネシアルピアは対円で上昇しました。米国連邦準備制度理事会（FRB）および欧州中央銀行（ECB）によるハト派的なスタンスが強まった発言や、G20に合わせて米中首脳会談への期待から、リスクセンチメントが世界的に回復しましたが、中国の景気減速に対する懸念が継続していることによって、その一部が相殺されました。国内では、インドネシアの経済成長見通しの力強さや政策面での支援を理由に、大手格付け会社が同国のソブリン格付けを引き上げました。一方、憲法裁判所は、大方の予想通り4月の大統領選挙の結果に対する野党側の法的な異議申し立てを却下しました。

<欧州・中東>

【イギリス】

イギリスポンドは、堅調な内容の英国雇用統計などが上昇要因となったものの、英国の与党である保守党の党首選挙で、欧州連合（EU）からの離脱強硬派とされる候補者が優位な状況で決戦投票まで進み、先行きへの懸念が広がったことや、英国の国内総生産（GDP）が市場予想を下回ったことなどをを受けて、円に対して下落しました。

【ノルウェー】

ノルウェークローネは、ノルウェーの消費者物価指数が市場予想を下回ったことなどが下落要因となったものの、ノルウェーの中央銀行が利上げを実施すると共に、総裁声明で年内の追加利上げの可能性を示唆したことなどを背景に、円に対して上昇しました。

【ポーランド】

ポーランドズロチは、G20に合わせて行なわれる米中首脳会談への期待等からリスクセンチメントが世界的に回復するなか、対円で上昇しました。国内では、労働市場の逼迫や食品価格上昇等から、消費者物価指数（CPI）は市場予想を上回りました。インフレのペースが足元で加速している兆しがあるものの、特に外需の見通しが引き続き不透明であることから、ポーランドの中央銀行が予防的な利上げを行なう可能性は低いとみられています。

【ロシア】

ロシアルーブルは、G20に合わせて行なわれる米中首脳会談への期待等からリスクセンチメントが世界的に回復するなか、対円で上昇しました。国内では、5月の消費者物価指数が2ヵ月連続して前月を下回る伸びとなりました。足元のインフレ指標が落ち着きをみせていることに加えて、インフレ期待が低下していることから、ロシアの中央銀行には強く待ち望まれていた利下げの実施余地が生まれ、政策金利を引き下げました。成長モメンタムが想定を下回る状況が続いていることなどから、ロシアの中央銀行は追加利下げに踏みきる可能性があります。

<アフリカ>

【南アフリカ】

南アフリカランドは、G20に合わせて行なわれる米中首脳会談への期待等からリスクセンチメントが世界的に回復するなか、対円で上昇しました。当月に発表された経済指標は強弱まちまちで、製造業生産および小売売上高などが市場予想を上回ったものの、鉱業セクターの生産活動は引き続き低調となりました。また、5月の消費者物価指数（CPI）は、輸送費の上昇を受けて市場予想を若干、上回った一方、コアインフレ率は前月の上昇率から変わらずとなりました。

投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

■当資料は、投資者の皆様にご理解を高めることを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。

運用コメント

※運用方針等は作成基準日現在のものであり、将来の市場環境の変動等により変更される場合があります。

◎運用概況

当ファンドは、新興国市場と先進国市場の通貨に分散させながら世界銀行債券に投資しています。

G20大阪サミット期間中に米中首脳会談が行われるとの報道などから米中通商協議の進展期待が高まる中、多くの投資対象通貨が日本円に対して上昇したことを受けて、当ファンドの基準価額は前月末比で上昇しました。

当月、コロンビアペソ、南アフリカランドなどが相対的に良好なパフォーマンスを示しました。

◎今後の見通し

ここ数ヶ月、FRBはハト派的な姿勢を強めており、年内あるいはそれ以降における追加利上げの実施は予想されていません。さらに、直近の会合でパウエルFRB議長は、先行きに対するリスクが5月初めの会合以来高まっており、状況の悪化が続くようであれば利下げの可能性もあると示唆しました。市場での金利予測では、0.25%の利下げが年内に3回も実施されると織り込まれています。その一方で、大阪G20サミットでの習国家主席との会談にてトランプ大統領が緊張緩和の可能性を示唆するなど、中国との貿易摩擦を巡る展開が引き続き地合いを変動させる最大の要因となっています。FRBのハト派的な姿勢と貿易協議の一時的な前進を受けて米国のイールドカーブは足元では若干スティープ化が進み、景気後退が差し迫っているとの警戒感が後退しました。当ファンドは、消費が相対的に堅調な状態を保っていることを踏まえ、米国の景気後退懸念は行き過ぎであるとの見方を変えていません。

オーストラリアでは、景気が引き続き低迷しています。第1四半期の国内総生産の成長率は前期比0.4%増となり、コンセンサス予想を下回りました。引き続き、輸出、設備投資、公共支出に支えられたものの、家計消費と投資の低成長が、景気動向の大きな足かせになったと考えられます。失業率の上昇など労働市場の低迷が広がる中、インフレ低迷や外部環境の悪化を受けて、オーストラリア準備銀行は政策金利を0.25%引き下げて1.25%としました。労働市場の低迷が続いており、追加的な金融緩和政策が必要になると考えられます。

ニュージーランドでは、5月の会合で政策金利を引き下げており、ニュージーランド準備銀行(RBNZ)の6月金融政策委員会は政策金利(OCR)を1.5%に据え置くことを決定しました。住宅価格の軟化と企業景況感の低迷を背景に国内成長率は低下し、弱い国内支出につながりました。RBNZは、低金利と政府支出の増加により、経済活動と雇用が押し上げられ、インフレ率も労働市場の逼迫に合わせて2%の中間目標に収斂すると考えているものの、世界景気の不確実性と国内成長率の低迷が継続するリスクを考慮し、今後数ヶ月で政策金利の引き下げが必要になる可能性があると考えられます。

ノルウェーでは、着実な成長の継続を受けて余剰生産能力が引き続き減少しています。国内経済活動は、強い外需、原油価格の上昇、低金利が下支えとなりました。また、消費者物価指数(CPI)は目標値を上回り、インフレ圧力もやや強まっています。好調な国内経済を踏まえ、ノルウェー中央銀行は政策金利を0.25%引き上げ、1.25%にすると決定しました。貿易摩擦に関連する不確実性から引き続き外需が圧迫される中、今後数ヶ月間は慎重なアプローチが採用されると思われます。

カナダでは、中国が導入した貿易制限措置が輸出に直接的な影響を与えるなど、貿易摩擦の高まりは国内経済を圧迫しました。一方で、鉄鋼・アルミニウム関税の撤廃や米国・メキシコ・カナダ協定(USMCA)批准の見通しが高まったことで、カナダの輸出と投資が押し上げられ、米中貿易戦争の負の影響が一部相殺される可能性が高まりました。カナダ銀行(BoC)は、2019年初にかけての景気減速が一時的なものとなり、経済活動が上向くとの見方を強めているように見えます。インフレ率は引き続き予想を上回っていますが、外部状況の弱さを考慮すると、BoCは今後しばらく政策金利を据え置き、将来的な金融政策は経済データ次第とする姿勢を維持すると考えられます。

2019年初めには、世界の主要な中央銀行が年間を通して、利上げやバランスシート縮小による流動性の引き締めを継続する可能性が高いという見方が大勢を占めていました。しかし、FRBが一段とハト派色を強めるなかで、年内の利上げはないと予想されており、また、足元ではFRBが利下げに言及する頻度が増えていることや、ECBのドラギ総裁が足元で利下げや資産購入の可能性を示唆していることなどを踏まえると、状況が大幅に異なってきたように思われます。こうした状況を踏まえて、新興国債券、特に健全なファンダメンタルズ(経済の基礎的条件)に下支えされた新興国債券は外国人投資家からの資金流入の増加という恩恵を引き続き享受するであろうことから、新興国債券にとっては好環境になるとみています。また、先進国市場における経済成長の緩やかな鈍化によって、新興国市場の経済成長が相対的に魅力的になっているように思われます。さらに、中国経済の鈍化は他の新興国市場にも波及していますが、すでに十分織り込まれています。G20首脳会議に合わせて行われたトランプ米大統領と中国の習近平国家主席との個別会談では前向きな発言が聞かれましたが、2,000億米ドル分の中国からの輸入品に対する制裁関税25%が賦課されたままであることなどを踏まえると、米中貿易戦争の長期化の可能性を考慮に入れる必要があります。一方で、中国政府は複数の景気刺激策を実施しており、制裁関税の影響はある程度相殺されています。したがって、新興国市場に対しては依然として慎重な見方を維持する必要はあるものの、個別の新興国市場を見ると、2019年を通じて引き続き回復を続ける市場が存在していると考えています。

投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産は為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

■当資料は、投資者の皆様にご理解を高めることを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。

日興マネー・アカウント・ファンド

ファンドの概要

設定日 2010年2月19日

決算日 原則毎年10月20日

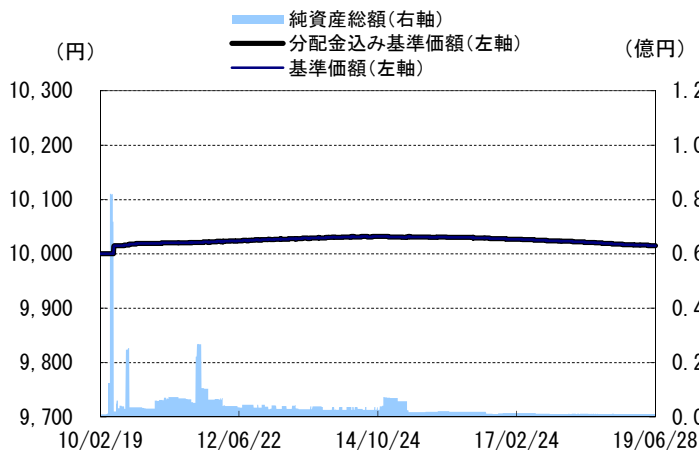
償還日 2024年10月21日

収益分配 決算日毎

運用実績

※このレポートでは基準価額および分配金を1万口当たりで表示しています。
 ※当レポート中の各数値は四捨五入して表示している場合がありますので、
 それを用いて計算すると誤差が生じることがあります。
 ※当レポートのグラフ、数値等は過去の実績であり、将来の運用成果等を
 約束するものではありません。

<基準価額の推移>



基準価額 : 10,015円

純資産総額 : 0.01億円

<基準価額の騰落率>

1か月	3か月	6か月	1年	3年	設定来
0.00%	-0.01%	-0.02%	-0.05%	-0.14%	0.15%

※基準価額の騰落率は、当ファンドに分配金実績があった場合に、当該分配金(税引前)を再投資したものと計算した理論上のものである点にご留意ください。

※分配金込み基準価額の推移は、分配金(税引前)を再投資したものを表示しています。

※基準価額は、信託報酬(後述の「手数料等の概要」参照)控除後の値です。

<資産構成比率>

債券	0.0%
うち先物	0.0%
現金その他	100.0%

<分配金実績(税引前)>

14・10・20	15・10・20	16・10・20	17・10・20	18・10・22
0円	0円	0円	0円	0円

※上記は過去のものであり、将来の収益分配を約束するものではありません。

投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産は為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

■当資料は、投資者の皆様にご理解を高めいただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。

■お申込みメモ

商品分類	<SMBC・日興 世銀債ファンド> 追加型投信／海外／債券 <日興マネー・アカウント・ファンド> 追加型投信／国内／債券
購入単位	販売会社が定める単位 ※販売会社の照会先にお問い合わせください。
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額
信託期間	2024年10月21日まで(2010年2月19日設定)
決算日	<SMBC・日興 世銀債ファンド> 毎月20日(休業日の場合は翌営業日) <日興マネー・アカウント・ファンド> 毎年10月20日(休業日の場合は翌営業日)
収益分配	<SMBC・日興 世銀債ファンド> 毎決算時に、分配金額は、委託会社が決定するものとし、原則として、安定した分配を継続的に行なうことをめざします。 ※将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。 <日興マネー・アカウント・ファンド> 毎決算時に、分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向などを勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行なわないこともあります。 ※将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額
購入・換金申込不可日	<SMBC・日興 世銀債ファンド> 販売会社の営業日であっても、下記のいずれかに該当する場合は、購入・換金の申込み(スイッチングを含みます。)の受付は行ないません。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。 ・英国証券取引所の休業日 ・ニューヨーク証券取引所の休業日 ・ロンドンの銀行休業日 ・ニューヨークの銀行休業日 ※日興マネー・アカウント・ファンド スイッチングを伴う購入・換金の申込みについて、スイッチング対象である上記ファンドの購入・換金申込不可日には受付を行ないません。 *スイッチングを伴わない換金の申込みについては、販売会社の営業日に受付を行ないます。
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して6営業日目からお支払いします。
課税関係	原則として、分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の差益は課税の対象となります。 ※課税上は、株式投資信託として取り扱われます。 ※公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度の適用対象です。 ※配当控除の適用はありません。 ※益金不算入制度は適用されません。

■手数料等の概要

投資者の皆様には、以下の費用をご負担いただきます。

<申込時、換金時にご負担いただく費用>

購入時手数料

<SMBC・日興 世銀債ファンド>
購入時の基準価額に対し3.24%(税抜3%)以内
<日興マネー・アカウント・ファンド>
ありません。 ※日興マネー・アカウント・ファンドは、スイッチング以外の購入はできません。
※購入時手数料(スイッチングの際の購入時手数料率を含みます。)は販売会社が定めます。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
※収益分配金の再投資により取得する口数については、購入時手数料はかかりません。
《ご参考》
(金額指定で購入する場合)
購入金額に購入時手数料を加えた合計額が指定金額(お支払いいただく金額)となるよう購入口数を計算します。
例えば、100万円の金額指定で購入する場合、指定金額の100万円の中から購入時手数料(税込)をいただきますので、100万円全額が当ファンドの購入金額とはなりません。
※上記の計算方法と異なる場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
(口数指定で購入する場合)
例えば、基準価額10,000円のとときに、購入時手数料率3.24%(税込)で、100万口ご購入いただく場合は、次のように計算します。
購入金額=(10,000円/1万口)×100万口=100万円、購入時手数料=購入金額(100万円)×3.24%(税込)=32,400円となり、購入金額に購入時手数料を加えた合計額103万2,400円をお支払いいただくこととなります。

換金手数料

ありません。

信託財産留保額

ありません。

<信託財産で間接的にご負担いただく(ファンドから支払われる)費用>

運用管理費用

(信託報酬)

<SMBC・日興 世銀債ファンド>
純資産総額に対し年率1.282%(税抜1.21%)程度が実質的な信託報酬となります。
信託報酬率の内訳は、当ファンドの信託報酬率が年率0.972%(税抜0.90%)、投資対象とするケイマン籍円建外国投資信託「WBグリーンファンド クラスA」の組入れに係る信託報酬率が年率0.31%程度となります。
受益者が実質的に負担する信託報酬率(年率)は、投資対象とする投資信託証券の組入比率などにより変動します。
<日興マネー・アカウント・ファンド>
ファンドの日々の純資産総額に対し年率0.594%(税抜0.55%)以内

その他の費用・手数料

目論見書などの作成・交付に係る費用および監査費用などについては、ファンドの日々の純資産総額に対して年率0.1%を乗じた額の信託期間を通じた合計を上限とする額が信託財産から支払われます。

組入る有価証券の売買委託手数料、借入金の利息および立替金の利息などがその都度、信託財産から支払われません。

※運用状況などにより変動するものであり、事前に料率、上限額などを表示することはできません。

※投資者の皆様にご負担いただくファンドの費用などの合計額については、保有期間や運用の状況などに応じて異なりますので、表示することができません。

※詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

■委託会社、その他関係法人

委託会社 日興アセットマネジメント株式会社
 受託会社 三井住友信託銀行株式会社
 販売会社 販売会社については下記にお問い合わせください。
 日興アセットマネジメント株式会社
 [ホームページ] www.nikkoam.com/
 [コールセンター] 0120-25-1404 (午前9時～午後5時。土、日、祝・休日は除く。)

■お申込みに際しての留意事項

○リスク情報

<SMBC・日興 世銀債ファンド(愛称:世界銀行グリーンファンド)>

- ・投資者の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者(受益者)の皆様に帰属します。なお、当ファンドは預貯金とは異なります。
 - ・当ファンドは、主に債券を実質的な投資対象としますので、債券の価格の下落や、債券の発行体の財務状況や業績の悪化などの影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資する場合には、為替の変動により損失を被ることがあります。
 - ・投資対象とする投資信託証券の主なリスクは以下の通りです。
 【価格変動リスク】 【流動性リスク】 【信用リスク】 【為替変動リスク】 【カントリー・リスク】
- ※ファンドが投資対象とする投資信託証券は、これらの影響を受けて価格が変動しますので、ファンド自身にもこれらのリスクがあります。
- ※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

<日興マネー・アカウント・ファンド>

- ・投資者の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者(受益者)の皆様に帰属します。なお、当ファンドは預貯金とは異なります。
 - ・当ファンドは、主に債券を実質的な投資対象としますので、債券の価格の下落や、債券の発行体の財務状況や業績の悪化などの影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。
 - ・主なリスクは以下の通りです。
 【価格変動リスク】 【流動性リスク】 【信用リスク】
- ※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

※くわしくは、最新の投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

【価格変動リスク】

公社債は、金利変動により価格が変動するリスクがあります。一般に金利が上昇した場合には価格は下落し、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。ただし、その価格変動幅は、残存期間やクーポンレートなどの発行条件などにより債券ごとに異なります。

【流動性リスク】

- ・市場規模や取引量が少ない状況においては、有価証券の取得、売却時の売買価格は取引量の大きさに影響を受け、市場実勢から期待できる価格どおりに取引できないリスク、評価価格どおりに売却できないリスク、あるいは、価格の高低に関わらず取引量が限られてしまうリスクがあり、その結果、不測の損失を被るリスクがあります。

(以下の流動性リスクは、「SMBC・日興 世銀債ファンド(愛称:世界銀行グリーンファンド)」のみに該当します。)

- ・新興国の通貨は、先進国の通貨に比べて市場規模や取引量が少ないため、流動性リスクが高まる場合があります。

【信用リスク】

公社債および短期金融資産の発行体にデフォルト(債務不履行)が生じた場合またはそれが予想される場合には、公社債および短期金融資産の価格が下落(価格がゼロになることもあります。)し、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。また、実際にデフォルトが生じた場合、投資した資金が回収できないリスクが高い確率で発生します。

【為替変動リスク】

- ・外貨建資産については、一般に外国為替相場が当該資産の通貨に対して円高になった場合には、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。
- ・新興国通貨建ての債券は、新興国の通貨の為替変動に影響を受けます。一般に新興国の通貨は、先進国の通貨に比べて為替変動が大きくなる場合があります。

【カントリー・リスク】

- ・投資対象国における非常事態など（金融危機、財政上の理由による国自体のデフォルト、重大な政策変更や資産凍結を含む規制の導入、自然災害、クーデターや重大な政治体制の変更、戦争など）を含む市況動向や資金動向などによっては、ファンドにおいて重大な損失が生じるリスクがあり、投資方針に従った運用ができない場合があります。
- ・一般に新興国は、情報の開示などが先進国に比べて充分でない、あるいは正確な情報の入手が遅延する場合があります。

○その他の留意事項

- ・当資料は、投資者の皆様へ「SMB C・日興 世銀債ファンド（愛称：世界銀行グリーンファンド）」および「日興マネー・アカウント・ファンド」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。
- ・当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。
- ・投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。
- ・投資信託の運用による損益は、すべて受益者の皆様に帰属します。当ファンドをお申込みの際には、最新の投資信託説明書（交付目論見書）などを販売会社よりお渡ししますので、内容を必ずご確認ください。お客様ご自身でご判断ください。

設定・運用は 日興アセットマネジメント株式会社
 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第368号
 加入協会：一般社団法人投資信託協会
 一般社団法人日本投資顧問業協会

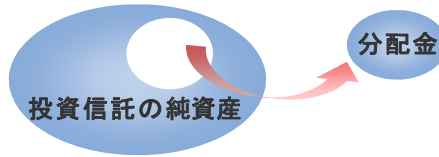
投資信託説明書（交付目論見書）のご請求・お申込みは

金融商品取引業者等の名称	登録番号	加入協会			
		日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
SMB C日興証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第2251号	○	○	○	○
株式会社三井住友銀行	登録金融機関 関東財務局長（登金）第54号	○		○	○

収益分配金に関する留意事項

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

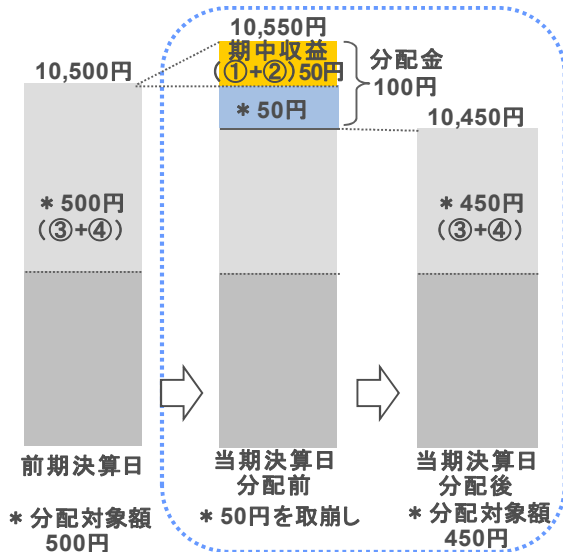
投資信託で分配金が支払われるイメージ



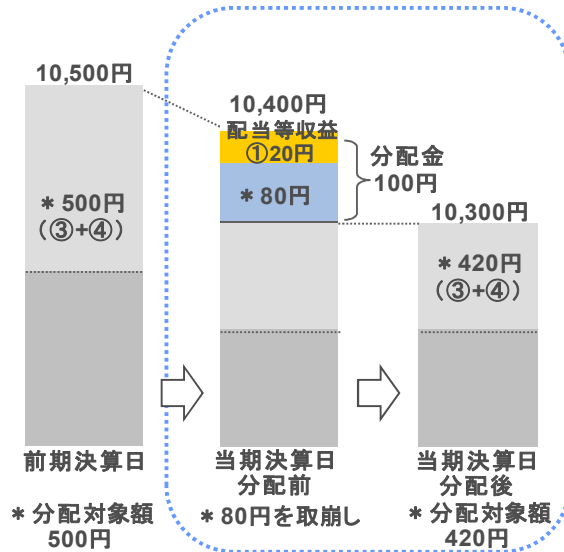
- 分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合

前期決算から基準価額が上昇した場合



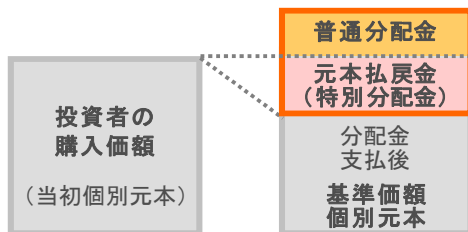
前期決算から基準価額が下落した場合



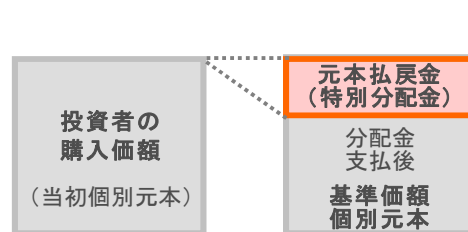
(注)分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③分配準備積立金および④収益調整金です。分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。
 ※上記はイメージであり、将来の分配金の支払いおよび金額ならびに基準価額について示唆、保証するものではありません。

- 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりの方が小さかった場合も同様です。

分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合



分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合



※元本払戻金(特別分配金)は実質的に元本の一部払戻しとみなされ、その金額だけ個別元本が減少します。また、元本払戻金(特別分配金)部分は非課税扱いとなります。

普通分配金 : 個別元本(投資者のファンドの購入価額)を上回る部分からの分配金です。
元本払戻金 (特別分配金) : 個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者の個別元本は、元本払戻金(特別分配金)の額だけ減少します。